

## 1. 第一印象

### Rグループのイムジョンモ

慎平さんの第一印象は一言で、静かであった。班ができて、自己紹介する時も声が小さくて、良く聞かなかった。日本人だからか、自分の意見を言いに慎重であった。私の担当になるかもしれない、質問をずっと続けた。学部・出身・血液型・趣味などの。

慎平さんに驚いたことがたくさんあった。まず、若いだけでなく幼く見えた慎平さんは今、医者になるために勉強を頑張っている医学部であった。もう一つ、驚いたのは出身であった。出身がとても遠い長崎であった。飛行機で行っても、韓国に行くほうが早かった。勉強することも難しく、たくさんある医学部、さらに親と遠く生活している慎平さんが頼もしかった。

散歩は私が住んでいる留学生会館で活動した。韓国の料理を食べさせたかった。イカいため物・チヂミ・キムチチゲを作った。日本人にはちょっと辛かったかもしれないが、皆、美味しく食べてくれて嬉しかった。この日にも慎平さんと少しだけ話した。彼は静かに自分のことを話してくれた。

私とは、正反対と言ってもいいほど静かであった。積極的な態度もあまりなかった。幼いのでと思った。しかし、私と同じのは好きなスポーツであった。二人ともバスケットが好きであった。まだ、性格が違って話したことあまりないが、どんどん増えて慎平さんのことについてもっと詳しくインタビューしたい。

## 2. 話題：慎平は、なぜ医者という仕事をしたいか？

どこの国でも同じであるが、医者という仕事は難しいことを超えて、とても大変であると思う。が、第一印象で幼いと感じた慎平がどのきっかけで医者をしよと思ったのが気になって、自然に話題になった。

6月4日には、慎平のことを知り始めた。慎平と話し合いする時、思ったのは私と慎平は性格は正反対であるが、行動様式や考え方や思考方式などは大体同じであると感じた。バスケットのようなスポーツでは、負けず嫌いで、勉強をすることを一人でゆっくり自分のペースでするのを好きにしていた。その上に、私は中学校で、慎平は高校の時で違い期間であるが、勉強をするのを好きにした期間が二人ともあった。インタビューと認識して、始めて話し合ったとしては、似ている点が多くて話が良くできた。

6月11日には、本格的に話題に入った。慎平に聞いてみた。「なぜ、医者になりたい?」。まず、人

を救われる人になりたいという抽象的な答えを聞いた。どんどん話を続けた。自分の経験からは、まず、慎平が10才に時、痛かったと話した。その時、自分の面倒を見てくれた医者先生が記憶に残っているほど優しく、慎平もその先生のような人になりたいと言ってくれた。また、慎平が好きであったお祖父さんが現代医学には直ることができなかった。それで、現代威医学の研究をして、医学を発展したいと思ったと。

隠すこともなく、私に親切に言ってくれた慎平にありがたかった。それに、私の考えであるけれど、何か確信をもっているような慎平を見て、気持ちがよくなった。なぜなら、慎平、自分がしたい仕事・夢が両親の影響もなかった。自分が考えて、選択したし、その上に確信・使命感まで持っているようなことで、久しぶりに若さの熱情を会った気分がしたからである。

### 3-1. 6月18日の話し合ったこと。

その日には、慎平が尊敬した好きであった人物の話をした。それで、慎平が好きであったお祖父さんのことを聞いた。私は少しの推測で聞いた。「お祖父さんが医者という夢を持つに決定的だった?」。その質問で、慎平は優しく説明してくれた。医者への夢に対して決定的な影響を受けたことはない。が、幼い時から色々なことをお祖父さんと一緒にしたと。それで、さまざまなことをしたので、お祖父さんにさまざまなことを教えてもらったと言った。しかし、そのことが医者になりたいと思うことに影響をくれたより、全般的な自分が持っている性格・生き方・人格に影響をくれたと言ってくれた。

家族のことも聞いた。私は先生という夢を持ったのは、父の影響が多かった。それで、もし、家族の誰かの影響ではないかと気になった。一番上の姉は獣医を勉強しているし、もう一人の姉は法学を勉強していると楽しく言ってくれた。それで、「親しいそうに見える。姉たちと良く遊ぶ」と聞いた。慎平は自身を持っているように答えた。「遊んだことが多かった。今も東京と一緒に行ってよく遊ぶよ」。何か偉い家族かと気になって、「両親は何の仕事?」と聞いた。「母はピアノ先生で、父は普通の会社員」。とても普通であって驚いた。普通の家族で、医学・獣医・法学とは。「両親、とても優しくて偉いですよね」慎平に言った。慎平が言った。「自分を支えているもう一つの存在で、大切に」。

### 3-2. 6月25日の話し合ったこと。

話題については大体話したので、その日には慎平のことをもって分かりたいと思って、基本的な会話に入った。趣味であった。慎平に興味は音楽感想・バイオリン・バスケットなどがあつた。その時、夢中になったらこれだけをすると言ってくれた。私も、勉強についても、スポーツについても、その時に関心があることに夢中になってそれだけをやる。話せば話すほど慎平と私は似ている点が多くて同質感まで感じた。

その次は、死ぬ前に一度はしたいと思うことを聞いた。答えは世界一周・アフリカ奉仕・バンジージャンプを答えてくれた。挑戦的であると感じた。

将来のことも聞いた。慎平、自分は医者が少ない地域に行って医者をやりたいと答えてくれた。自分の故郷がそうだから、故郷で勤務することもいいと言ってくれた。

## 4. まとめの下書き

私にとって慎平は新入生の時の私を感じれる人であった。今の私は、子供の時からお父さんに影響されて先生という夢を持っていたんだ。それで、その夢を叶えるために一所懸命に勉強をした。しかし、世の中とか、現実とか、自分の中で壁を感じて、先生という夢は諦めてしまった。それに対

して、慎平は、性格は少し反対的であるが、自分の考えを重要にしていること、肯定的な考え方を持っていること、医者という夢に向かって努力することを見ていると新入生の時の熱情が浮かべた。慎平と話し合っ、大体分かってきた。話し見て、似ている考え方を持っているのが感じた。慎平は熱情を持っていて、それに、責任感の使命感も持っていると考えて私と年の差があっても、精神的に合う幹事がする人であると思う。

## 5. クラスについての感想

### 5-1. クラスで学んだこと

言う必要もないと思うことかもしれないが、一番のことは日本語のことである。一番会話ということも多くする授業であるから。たとえば、インタビューする時、何の状況に何の動詞が適切かということも、勉強した文法がこのように使うんだということも

また、日本のことについて学んだ。授業の目的は、個人的な話して相手はどんな人かを分かることだったが、会話すればやはり自然に分かってきた。たとえば、日本の学校のシステムや学生たちの生活など。

最後に、私にとって一番学んで良かったと感じたのは、慎平のみならず、私をインタビューしてくれた涼にもありがたいと思うのは、私に対して100%本音で会話してくれたことである。インタビューをする時も、される時も全然違和感を感じたことがなかった。私の性格はもともと自分のことを隠すのが下手であるので、当然に相手にも真実を欲しい。しかし、私が知っている日本は「内外」・「本音・建前」があって、気に入らなかった。会話する間にも、それが気にしていた。が、慎平も、涼もそのような態度は見えなかったので、私も100%の本音で会話することができた。日本人を日本という国の人間に見なく、ただ国籍が日本の個人を感じられて、ありがたいと思う。インタビューして良かった。

### 5-2. クラスについて

難しかった点は、何を聞けば、今のインタビューをよく進めるか。質問の限定・最大値はどこまでか。文化が違うので、「ウチソト」という文化がある日本人なので、失礼な質問をするのではないかと心配がかけた。また、個人的な事情をレポートに書いても大丈夫かという心配もでた。たとえば、慎平のお祖父さんのことでした。慎平にはとても尊い人で、慎平が言った通りに自分に一番影響を与えた人で、何よりも家族であるから慎重に書かなければならないと失礼になるからである。

良かった点は、私には、日本語を多く使う機会になって良かった。日本に来た目的が日本語を話す能力を育ちたいと思ったから、この授業のインタビューがよい機会になり、多く役に立った。それに、ある外国の人と親密感と絆をもってコミュニケーションをしたという経験が私の心に永遠に残っている思い出ができて良かった。またそのようなコミュニケーションが欲しいんだ。

改善して欲しい点は、先生に伝えることですから、書くスタイルを尊敬にします。まず、先生が授業の中で、学生たちに望んでいることが明確ではなくて、紛らわしかったんです。相手と話す主題を決まる時に主題を重くするのがいいか、軽くするのがいいか、ちょっと分からなかったんです。先生が求めていることについてもっと明確に説明して欲しかったんです。または、インタビューが始まる前に、他の学生が書いたレポートを見せてくれば、もっと主題を決まるのにしやすくなるし、時間が節約すると思います。